

# 沖縄観光の更なる発展に向けた取り組み

内閣府政策統括官 沖縄政策担当(付)  
企画担当 参事官室

沖縄観光は、昨年の入域観光客数が五百万人を超え、過去最高の五百八万人を記録しました。現在も好調に推移しています。沖縄観光の更なる発展を図るためには、新たな魅力づくりや質の高い受入体制の確立などが課題となっています。今回は、そうした観光振興に向けた取り組みについて、いくつか紹介します。

## 一 平成十六年度新規事業

### (一) バリアフリー観光推進事業

近年、高齢者や障害者の旅行参加が増大していますが、ハード・ソフト両面における受入体制は、まだ十分とはいえない状況にあります。

この事業では、高齢者や障害者の方々にも沖縄の魅力を楽しんでいただくための受入体制などについて、モデル事業の実施を通して検討します。旅行者に優しい沖縄観光を実現することを目的としています。

### (二) 沖縄離島地域観光活性化推進事業



県内で開発された水陸両用車椅子の使用例

離島を舞台にしたテレビドラマの影響等により、宮古、八重山、久米島などの離島への観光客の増加が顕著となっており、いわゆる離島ブームが起っています。このブームを一つのピークとするのではなく、離島の魅力を更

に高め、持続的な離島振興につなげていくことが大事です。

この事業では、宮古、八重山、久米島の各地域において、地元と観光関連業者等との協同により、地元への波及効果が大きい「通年型・体験・滞在型観光プログラム」を開発し、そのプログラム実施のための誘客プロモーションを行っていくこととしています。

### (三) 沖縄空手交流推進事業

沖縄を発祥の地とする空手の愛好者は、世界で四、五千万人いるといわれており、旅行マーケットとしても大きな可能性を有しています。

この事業では、沖縄空手を通じた国内外の交流を推進することにより、沖縄空手の発展を期すとともに、観光振興を図るため、沖縄空手の実態や動向の把握、受入体制の整備を進めるとともに、沖縄空手関係者の交流セミナーを開催することとしています。

## 二 継続事業

### (一) 観光産業人材育成事業

沖縄を訪れる観光客の満足度を高めるためには、観光に従事する人材の質的な向上が、非常に重要となってきています。



伊江島：ダイビングスポットエントランスの整備



この事業では、宿泊、観光関連施設等、観光産業に従事する各部門の方々を対象に研修を実施するとともに、観光産業人材育成システムとして、観光人材センターの設置、観光人材資格認定・登録制度などについての検討を行い、観光客の多様なニーズに対応できる質の高い人材の育成を図ることとしています。

### (二) 沖縄観光共通プラットフォーム構築事業

観光客の増加を図っていくために、質の高い沖縄観光の情報を国内外に発信し、沖縄の魅力をPRすることが重要です。

この事業では、インターネット上に多言語対応の共通プラットフォームを構築し、ポータルサイトとして国内外からの観光客の利便性の向上を図ります。これにより、沖縄観光情報の窓口が一本化され、利用者が効率的に最新の観光情報を得ることが可能となります。

### (三) 世界遺産周辺整備事業

この事業では、平成十二年に指定された首里城をはじめとする世界遺産を活用し、観光客に魅力的な沖縄の歴史、文化空間を提供するために、当時の雰囲気を感じられるような石畳道や石碑の復元、休憩施設などを整備し、観光地としての魅力アップにつな

げていきます。

### (四) 観光振興地域等整備事業

最近の観光客の傾向として、リピーター化、レンタカー利用者の増加、また、ダイビング等ニーズの多様化が挙げられます。こうした観光客のニーズに適切に対応するため、この事業では、観光案内標識の設置、ダイビングスポット周辺でのシャワー・トイレ等の設置、観光客の利便性・快適性の向上を図るため、きめ細やかな整備を行っています。

### (五) エコツーリズム推進事業

近年、自然に触れ、体験することへの関心が高まる中、自然環境の保全と持続的な観光振興の両立が課題となっています。

この事業では、エコツーリズム重点地区である西表島、やんばる地域、慶良間諸島において、エコツアーを行う事業者による自然環境を守るルールである保全利用協定の自主的な締結を促進しています。また、エコツーリズム推進のための全県的機関の設立、ガイド認定制度の構築に向けた検討など、先進的な取り組みが進められております。

平成十六年五月、西表島の仲間川地区における保全利用協定が初めて認定されたところでした。



カヌーによるエコツーリズム